

## まちづくりに参加したメンバーの感想・これからの抱負

- ゆか**：私たちは、クリスマス会を行いました。とても楽しい空間で地縁も深まったのではないかと思います。このクリスマス会をきっかけに富里の地縁を深めていけたらいいなと思いました。
- みく**：チームの皆さんと協力しながらイベントを行い、地域交流イベントの主催者側になり、改めて大変さを感じ、今回の活動を活かし、これからも地域交流に関わりたいと思います。
- ほのか**：大きな学びは、「地域での活動は必ず誰かに必要とされている」という実感をいただいたことです。今後も思いをつなげられるような活動をお手伝いしたいです。
- にちか**：今回の活動を通じ、同じような思いを持つ同年代が市内にいると知れて嬉しかった。またこのような人同士がつながることの大事さを感じたので、今後人とのつながりを大切に生活していきたい。

- ゆめ**：私は参加したことにより、事業を企画し、運営することの大変さや SDGs について知ることができました。この経験を活かし、またこのような機会があった場合には積極的に参加したいと思います。
- ダイ**：今回の活動を通じ、改めて、「富里の発展」について考えさせられました。自分がこのような形で協力できたことに、とても感謝しています。これからも、富里のまちをより良くしていきたいです。
- ソラ**：自分では想定できなかったことに意識を向けることができました。危険個所の啓発には危険を連想させる雰囲気、また心理学も考慮しなければいけないことは本当にためになりました。
- マナカ**：私は B グループの活動で、文字のない絵だけで描いた看板で安全を伝えるのが難しかったです。若者プロジェクトを通して、活動を始める前とは別の考え方ができるようになりました。
- シュリ**：プロジェクトに参加し、自分たちで考えて市の問題解決に取り組む活動は、とても良い経験になりました。私のグループの看板が、少しでも一時停止の啓発に役立つことを願っています。
- タイキ**：今回の活動を通して、市のためにグループのリーダーとして看板を作れてとてもうれしかったです。今後は、この看板が市の役に立ってくれることを願うだけです。

- しげん**：夏休みから春までという長い時間を使って、1つの事をするのは初めてだったので、とても新鮮でした。また、自分と年の離れた人たちの意見を聞くことができたのも良い経験になったと思います。
- いおり**：講座に参加してくれた小学生がしっかりと SDGs について勉強していたことに驚きました。自分も小学生と一緒に SDGs を学ぶことになり、小学生には良い思いをして欲しかったので、必死になりました。小学生が帰るときの顔を見て、心の底から安心しました。
- りお**：メンバーたちと市内の課題を解決する企画をメンバーの意見を尊重しながら考案し、実行することが大切だと分かりました。やりとげた達成感があるからです。
- マリン**：SDGs スクールは、自分たちで企画、実行できた貴重な体験だったと感じています。今回学んだことを若者プロジェクトチームに参加できなかった人たちに発信し、今後につなげていきたいです。
- ハルキ**：この若者プロジェクトの活動を通じ、市の課題や SDGs のことにごく詳しくなり、より良くしていこうという気持ちが強くなっただけでなく、自分より年上の方や年下の方など色々な方々と一緒に作り上げてきた達成感があります。C グループでは小学生に SDGs について知ってもらうために、とにかく色々な工夫をして実施できてよかったと思います。
- ホマレ**：自分たちのチームは小学生を対象とした SDGs の学習を行った。小さいうちに SDGs などのまちづくり活動に触れていくことで、それが身近で日常的なものになっていくと思ったので、若者、子供たちに、SDGs や環境問題、まちづくりに関する場を定期的に設けることが重要だと感じました。参加するだけでなく企画者となることで自身も多くのことを学ぶことができました。



# 若者プロジェクトチーム 活動報告書

令和4年2月発行 編集・発行：富里市総務部市民活動推進課 若者プロジェクトチームメンバー 〒286-0292 富里市七栄 652-1 電話 0476-93-1117

## 若者プロジェクトチームによる目指せ！ サステナブル・コミュニティ



地域課題



第2次富里市協働のまちづくり推進計画の実行計画に基づき、市内在住・在学している中学生から大学生までの若者16名が、地域課題の解決及び持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、令和3年7月24日から令和4年2月19日の間、16回に渡り、地域課題について各地域づくり協議会から説明を受けたほか、SDGsについて学び、現地調査、市民活動団体への取材などを通じ、課題を把握し、解決方法を検討し、アドバイザーから助言を受けながら、企画事業を立案・実行して、まちづくりに参加しました。事業実施に当たっては、市民の皆さんをはじめ、事業者、学校の御協力をいただきました。

市長挨拶



富里市長 五十嵐 博文

若者プロジェクトチーム事業は、若者たちにまちづくりに関わる機会を提供し、若者たちが、地域に目を向け、市に興味・関心を持ち、人生観や価値観を育て、富里を想う心も育む事業であると考えております。

今回、本事業に御協力いただきました皆様に感謝を申し上げます。

今後も、若者たちが地域と連携するまちづくりを支援し、「持続可能なまち・富里」へつながるように努めてまいります。



# 各グループの地域課題の把握から企画事業実施

## Aグループ

地域課題：コミュニティの希薄化

SDGs 目標：



手作りした看板



アイスペイク

事業名：「ほっこりステーション」

内容：地域で活動している青少年相談員、子ども食堂の運営者から地域の現状を学び、地域課題を絞りこみました。両国地区の協力をいただき、アンケートを実施し、ニーズ調査を行い、令和3年12月4日（土）に両国ふれあい館を会場に、外遊びを含めた「クリスマス会」を開催しました。地域からは子どもたち、保護者、地域ボランティア総勢21名の方々が参加し、クリスマスカード作り、外遊び、ビンゴを楽しみ、地域交流を深めました。参加者アンケートでは、参加者全員が楽しかったと回答し、保護者からも今後の活動をお手伝いして下さるとの回答もあり、今後につながる地域活動になりました。



大人も子どもも一緒に外遊び



市民・事業者の皆さんから寄せられたクリスマスプレゼント

アドバイザー  
千葉大学教授  
清水洋行氏

自分たちが実施したいことを企画し、活動で大事にすることを決めると良い。

## Bグループ

地域課題：歩道・道路が狭い、ガードレールが少ない

SDGs 目標：



事業名：「心理への叫び～交通安全啓発～」

内容：市の建設課及び学校教育課職員から市の道路や指定通学路について学びました。交通事故多発地点の現地調査を実施し、歩行者やドライバーに心理学と人間工学に基づく注意喚起を促す交通安全啓発看板を制作し、令和3年12月4日（土）に市内2箇所に設置しました。看板制作に当たっては、廃材を活用し、地元事業者の協力を得て、看板の大きさ、ペンキの塗り方、看板の立て方などを教えていただいたほか、機械も貸していただきました。また、看板設置においても地元事業者に協力をいただきました。看板には、歩行者、自転車・自動車の運転者が、交通ルールを守り交通事故が起きない街になるように願いを込めました。



現地調査



看板製作の様子



愛称：とみか



啓発看板を設置

アドバイザー  
順天堂大学准教授  
山田泰行氏

事故が起きる原因を人的要因を含めた4M理論、歩行者や運転手等の調和を図る人間工学SA理論、人間の行動特性を理解し、効果的な啓発物の提示方法を検討するナッジ理論を用いると良い。

## Cグループ

地域課題：不法投棄・ポイ捨て、情報発信不足

SDGs 目標：



事業名：「SDGs スクール in TOMISATO」

内容：地域で活動している防犯指導員の方や環境美化活動をしている市民活動団体の方から活動について学んでいく中で、情報発信が不足しているという課題が見えてきました。子どもの頃から学び、行動することが重要と考え、市内の小学生に、不法投棄・ポイ捨て、防犯、SDGs 目標11に関する情報を校内放送で伝えるとともに、小学生と保護者に向けてお便りを作成・配付しました。また、令和3年12月4日（土）に「SDGs スクール」を開催し、6名の小学生にSDGsの説明と「SDGs すごろく」を実施しました。参加した小学生全員がSDGsに興味を持ったと回答しました。また、校内放送を聞いた小学生からは、自分たちにもできることがあることが分かった。小さなことでも大きなことにつながるということが分かりましたなどの声が聞こえてきました。

アドバイザー  
環境パートナーシップ  
横山清美氏

小学生に何を伝えたら良いかを考えること、子どもたちに伝わる言葉で、話す時間は3分程度にすると良い。

アドバイザー  
並木進氏

パンフレットを作る目的やターゲットを明確にすると良い。



「SDGs すごろく」を実践し、説明方法を考える



録音前、各自廊下で練習



配付したお便りと校内放送で流した音声CD



SDGs スクール様子

## 全体セミナー・SDGs 学習会・活動からうまれた行動

全体セミナーとして、地域づくり協議会等から地域課題と団体としての課題について学びました。公開講座「SDGs 学習会」では、一般の方19名も参加し、SDGsは、自分ごと、地域ごとなどで考えることができることが分かったという声が多く聞かれました。メンバーの中には、自主的に市内外の子ども食堂にボランティアとして参加したり、学校で若者プロジェクトチーム活動のプレゼンを行い、同級生にまちづくりへの参加を呼び掛けたりする行動も見られました。



地域づくり協議会から地域課題を学ぶ



SDGs 学習会



市民の方から届いた活動を応援するタペストリー



自主的に行動を始めたメンバー

講師  
允治社 代表  
泉貴嗣氏

視野を広くし、期限のない社会的目標を持ち、SDGsにチャレンジする、学び続けることが「暮らしやすいまちづくり」につながる。



活動の詳細は、市公式ホームページを御覧ください